

地域公共交通の課題と展望

～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

VOL. 5 北海道小樽市（林下市議）

■小樽市における公共交通の実態

小樽市は、人口12万4千人の札幌市近郊に位置する地方都市である。歴史的建造物を多く有し、また運河などの観光名所も多くあり、年間700万人以上もの観光客が訪れる観光都市でもある。そのため、観光客でも市内周回が可能となるような公共交通の重要性を市としても認識している。

また、同市は後背地が山に接し、比較的坂道が多い地形となっている。従って、徒歩や自転車での市内移動は困難なため、従前から民間バスを中心として域内交通が発達してきた。さらに昨今の高齢化により、同市も65歳以上の老年人口割合が35%を超え、ますます公共交通の重要性は高まっている。

なお、小樽は札幌との流動が極めて多く、小樽～札幌間は鉄道のみならず都市間バスについても相当の本数が運行している。

さらに、北海道新幹線が来春に開業後、札幌までの延伸が企図されているが、その際には小樽にも新幹線新駅が建設される。ただし、計画では現在の小樽駅から5km程度離れた山間に建設される予定となっており、二次交通をどうするかといった課題も有している。

■小樽市の抱える交通の課題と展望

6月3日、JR連合及びJR北労組は林下小樽市議会議員を訪問し、小樽市における公共交通の実態についてヒアリング及び意見交換を行った。林下市議からは、中央バスを軸とした小樽市内の域内移動が相当程度整備されている点、しかし、地方部、とりわけ隣接する市



町村を跨ぐ域内交通が貧弱で、住民に不便をかけている点が報告された。これまでは極めて優良な民間バスに支えられて公共交通が確保されてきたが、今後の沿線人口減少に際して路線撤退などが発生した場合の市としての対応等、今後の課題について課題提起がなされた。また来春の北海道新幹線開業に向けた小樽市としての取り組み、さらには札幌開業を見据えた課題などについても提起がなされた。

■小樽市交通政策担当者と意見交換

その後林下市議とともに小樽市を訪問し、同市の交通政策担当者と意見交換を展開した。

林下市議が提起した課題提起は小樽市にとっても極めて重要な交通政策上の課題として認識されていた。現在小樽市は民間バスを中心とした域内交通に支えられているため、公共交通への財政負担はほぼ発生しておらず、そういう意味では極めて優秀な基礎自治体と言える。とは言え、今後バス路線撤退を想定したコミュニティーバスの利活用や小樽駅を結節点にした更なる公共交通の連携強化などに今後取り組んでいきたいとの意向が示された。

加えて、小樽市の産業の軸をなす観光、特に滞在型観光をどのように伸ばしていくのか、その中での総体としての公共交通のあり方についても目下政策立案中とのことであった。如何せん札幌に近いと、観光客の入り込みは多いものの、日帰り観光に特化されてしまい、なかなか小樽市内で宿泊してもらえないとのこと、来春の北海道新幹線開業に合わせ、J R北海道ともタイアップしながら小樽市への滞在型観光客の入り込み数を増加させる取り組みを展開していきたいとのことであった。

■観光と交通の連携を！

今回のヒアリングでは、観光という切り口での意見交換が展開できた。都市間交通と域内交通の連携は、観光需要創出のためにも極めて重要であることを認識するに至った。都市には都市の課題問題点がある。J R連合はそうした現場の実態を十分受け止めつつ、チーム公共交通の形成に向け現場実態に即した政策立案を展開していく。